

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 博士前期課程の院生の研究に対して、複数あるいは他領域の教員からコメントできる発表の機会を年2回程度設けること、また発表へのインセンティブを与えうる仕組み(発表の義務化など)も導入することを、2010年度中に検討した上ですみやかに実施に移す。	→前期博士課程院生の学内研究発表機会(ワークショップ等)の開催回数	B	B	A		
2. 博士後期課程の院生の研究に対して、発表の機会を年2回程度設け、発表へのインセンティブを与える仕組み(奨学金の充実化など)を2010年度中に検討したうえですみやかに実施に移す。	→後期博士課程院生の学内研究発表機会の開催回数および学会での発表回数	B	B	B		
3. 博士前期課程・後期課程の院生1人当たりの学術雑誌等での論文刊行数を、2013年度までの5年間で1.5倍にする。	→前期博士課程院生および修了者、また博士後期課程院生による学術雑誌論文刊行数	C	C	C		
4. 修士論文の質を改善するための仕組みを2010年度中に検討し、実施に移す。	→前期博士課程院生の修士論文の成績評価の平均点	C	C	B		
5. 博士論文の質を改善するための仕組みを2011年度までに検討すると共に、博士論文提出までの基準をより明確にする。	→後期博士課程院生による査読付き論文の刊行数	C	C	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度より、リサーチ・コンソーシアムでの発表の義務化、リサーチ・フェアでの発表の促進、ドーナツアワー及びポリシーワークショップへの主体的参加の他、リサーチ・プロジェクトでも他領域教員のコメントを受けられる機会を設けた。
目標2	2011年度より、後期課程大学院生の国内外での学会発表及び海外調査に対する旅費助成制度を充実させた。延べ2名の学生が制度を利用して海外渡航した。また国内外の学会での後期課程学生の発表回数は2回（前期課程学生は1回）であった。
目標3	研究テーマや学会によって発表機会に格差があるため、まだ目標数値には到達していない。
目標4	修士論文の審査については、従来の口頭試問に加えて2011年度より公聴会を開催し、広く評価を受ける機会を設けた。修士論文の成績評価の平均点は2009年度79.5点、2010年度77.9点、2011年79.7点であったが、修了者数が少ないため必ずしも平均点の向上が優秀な研究成果の増加につながるとはいえないことを申し添える。
★ 目標5	博士論文の提出・審査については、従来より、研究分野のレビュー論文提出・審査、概要論文の提出・審査という2段階の審査を行い、それに合格したものを博士論文提出資格者として認定してきた。また、博士論文の提出に当たっては、既発表の論文が3本以上あることを条件としており、これにより一定の外部評価がなされていることを要件としてきた。2011年度秋学期にこれらのプロセスを再確認し明文化した。効果が明らかになるのは2013年度以降の見込みである。
備考	